

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 七栄小学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」，「算数」，「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕，〔思考力，判断力，表現力等〕の内容に基づき，全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算数	学習指導要領における，「数と計算」，「図形」，「測定」，「変化と関係」，「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

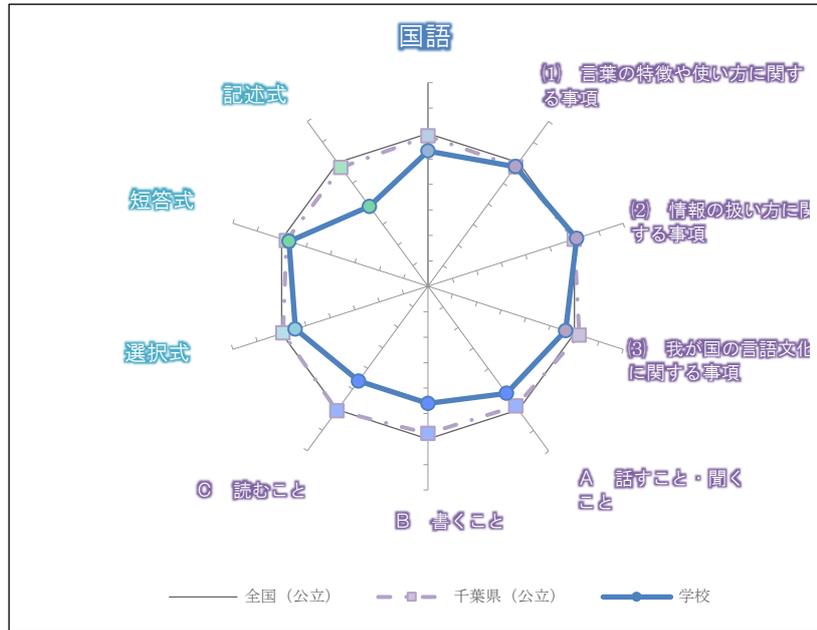
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



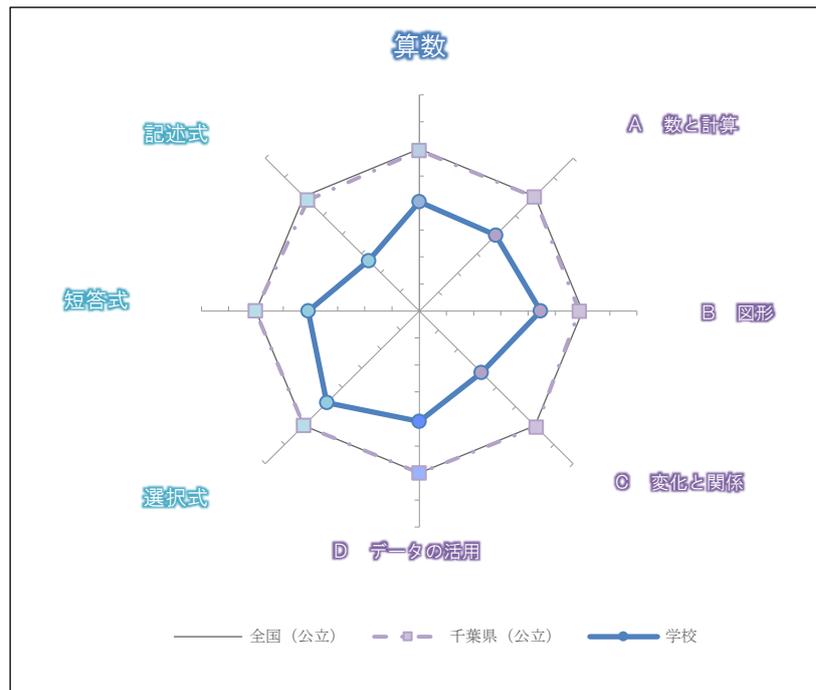
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均に比べ正答率がやや低いです。
- 昨年度、「記述式」の問題での正答率が上がりましたが、今年度は大きく下がり、無解答率も全国や県の無解答率に比べ、高かったです。自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、物語の表現の効果を考えたりすることに課題があります。
- 「書くこと」の領域では、全国や県に比べ、正答率は低いですが、平均正答率の相対値（全国を100とした場合の本校の値）が昨年度に比べ、(79.4%→86.0%)と結果が向上しています。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題の正答率は県や全国とほぼ同じでしたが、無解答率が全国や県に比べ高かったため、この点に課題があります。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習やミニテストなどを通して漢字の読み書きが確実に定着するようになっています。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導していきます。
- 「書くこと」については、各教科の授業において、書くという場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。また、教師による添削も行っていきます。
- 書く活動を意識的に取り入れ、書く場面を設定したことにより、「書く」ことに対して、抵抗感が下がってきています。引き続き、いろいろな場面で書く活動を取り入れ、書くことに慣れさせるとともに、書く内容についても指導をしてまいります。

算 数



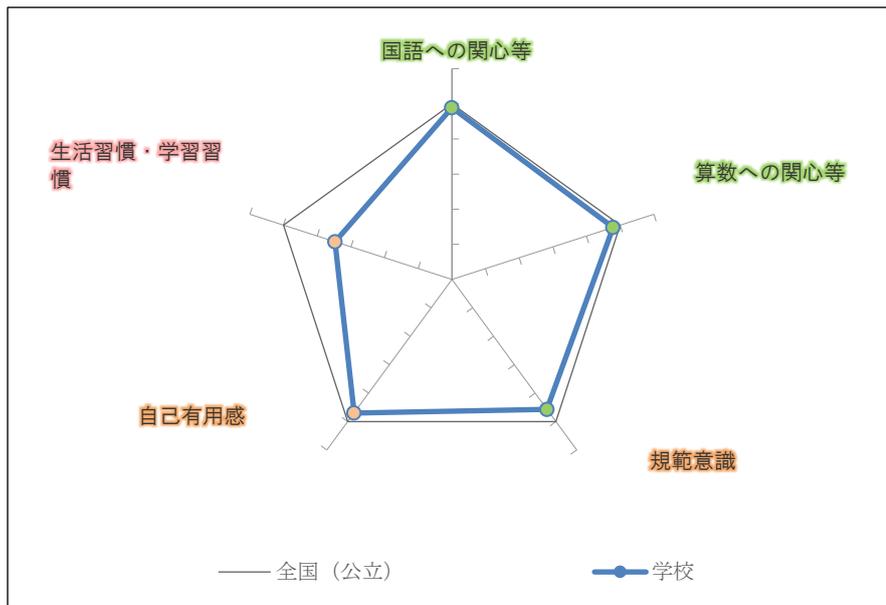
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均に比べ正答率が低いです。
- 国語と同様、記述式の問題の正答率が下回っています。また、無解答率も高い傾向にあります。
- 学習指導要領の領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」全てにおいて全国・県の正答率を下回っています。学習内容の確認をし、再度学習する必要があります。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかの問題は、正答率も低く、無解答率も高いことが分かりました。
- 直方体の見取り図について理解し、かくことができるかの問題では、唯一、全国・県の正答率を上回りました。無回答率も0%で全員が解答しました。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や100マス計算の練習などを通して、基礎・基本的な計算力が確実に身に付くように努めてまいります。
- 記述式の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 生活習慣に関する質問「朝食・早寝・早起き」等については、全国平均を下回っています。また宿題や家庭学習等についての質問も全国平均を下回りました。
- 携帯電話の使用時間やタブレット、テレビゲームの使用時間は全国平均を上回っていて、生活習慣に関する質問とも関連して、学習面に影響が出ていると考えられます。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問では、全国平均を下回っています。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」や「友達関係に満足していますか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っており、前向きな児童が多いことが分かりました。
- 昨年度全国平均を大きく下回っていた「新聞を読んでいますか」では、やはり全国平均を下回り、新聞を読む習慣が身に付いていない児童が多いことが分かりました。
- PC・タブレットなどのICT機器を活用することについては苦手意識がなく、楽しみながらきちんと活用できていることが分かりました。日々の学習の中での活用が身に付いてきました。

3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。また、授業はもちろんのこと、学校生活全般において、ルールや約束を守り、皆でより楽しい学校生活を送れるような雰囲気を作り、規律正しい生活ができるようにしていきます。

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身につけられるように、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。